

具体的に学校で行うこと

- **聴き合う関係**を基盤とした次のような**「活動システム」**を取り入れます。このことで、どのクラスにも学び合うための空間がつくられます。

【活動システム 1】 教室で取り組むこと

- 男女混合の**4人グループ**での活動を主とする。
(低学年では**ペア**)
- わからなかったら「**ここどうするの？**」と友だちにたずねることを習慣化する。
- できそうでできない課題に出会わせることで「**ジャンプのある学び**」を実現する。

【活動システム 2】 教師が心がけること

- 「聴く」「つなぐ」「もどす」の3つに専念する。
- 声のテンションを落として、話す言葉を選ぶ。
- 子どもの学ぶ様子に応じて即興的・創造的に授業をつくる。

【活動システム 3】 学校運営として実施していくこと

- 全ての教師が同僚に授業を公開する。
- 授業の観察にもとづく事例検討会をもつ。
- 事例検討会は子どもの学びの質を高めることを目的とする。
- 教師がどう教えたかよりも、子どもがどう学んだかをていねいに検討し合う。

【活動システム 4】 保護者や市民の皆様に

- **いつでも授業を参観**できるようにする。
- **学習に参加**して子どもとともに学ぶ機会をつくる。
- **授業をつくる支援**をしていただく機会をつくる。

【活動システム 5】 他の学校との関わり

- **校内研修を公開し、参加者から批評を受ける。**
- **他の学校の授業研究会にも参加し、自らの授業力向上を目指す。**